

## 2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 20 日

|            |                              |              |     |                                       |      |
|------------|------------------------------|--------------|-----|---------------------------------------|------|
| 所属         | 商経学部                         | 職名           | 准教授 | 氏 名                                   | 小林直人 |
| 研究課題       | 大学のリテラシー教育における自然言語生成 AI の利活用 |              |     |                                       |      |
| 研究キーワード    | 大学教育<br>自然言語生成 AI            | 当年度計画に対する達成度 |     | 3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した |      |
| 関連するSDGs項目 | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう           | 該当なし         |     | 該当なし                                  | 該当なし |

## 1. 研究成果の概要

2023 年以降の本研究テーマにおいて、大学教育における Chat GPT の活用、特に学生の授業および授業外活動の利活用、および教員の授業資料作成に関する利活用は、本学学生からの調査および私自身の経験を通じて、多くの知見が得られた。さらに、本学の初年次教育である「情報入門/実学入門 I」の教材に反映させることもでき、学生自身が主体的に生成 AI を利用して教育に取り組む土台は整ったと考えられる。

研究成果として、事例およびデータは十分に整ったため、成果を本学の機関誌に投稿予定である（2025 年度夏予定）。

## 2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

なし（本学機関紙投稿予定）

【学会発表等】

なし

## 3. 主な経費

PC や消耗品の購入に利用した。PC は高性能な GPU が搭載されたものを購入し、PC で動作する生成 AI を検証する準備を整えた。

## 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

基盤研究 (C) (一般)：令和 6 年度～令和 8 年度 山内真理、課題名「生成 AI 活用の教育学修支援：リテラシーレベルに応じた活用可能性の体系化を目指す」(24K06213)

(本文は 2 ページ以内にまとめること)